

第3種郵便物認可

園芸施設で実証
アグリクラスター（さいたま市中央区）の主力製品である地中熱システムの第1号機が完成したのは2010年。自己資金1000万円と埼玉りそな銀行の融資1000万円を以て創業してから2年が経過していた。この間、社長の福宮健司と前職の先輩と後輩の計3人は、地中熱システムの研究開発・製品化

不撓不屈

ふとうふくつ

アグリクラスター ③

初受注まで2年

と並行してボーリングマシンなどの設計などを請け負い、必死になって会社を存続させた。

10年に試作機を完成し、胡蝶蘭を栽培する黒臼洋蘭園（同見沼区）の協力を得て、ビニールハウスの室内環境や地中の状態、ヒートポンプ装置の運転を全自動で制御する施設園芸古井戸熱源活用システムの実証実験を開始。千葉県佐倉市の顧客から300万円を念願の初受注に成功し、同年12月にシステムを納入した。

日本中どこでも

ただ、ビジネスモデルは早くから評価されていた。09年3月に将来性のある事業計画を持つ起業家を表彰する埼玉県の

安定熱源評価、ビジネス表彰



16年に渋沢栄一ビジネス大賞のテクノロジー部門奨励賞を受賞した福宮社長（右）

地上室内に熱源として採取できる。冷暖房として送風する作業負担を軽減して送風する。他の地中熱システムに比べて送風する。他の地中熱システムに比べて送風する。他の地中熱システムに比べて送風する。

「いちおし『起』業プラン大賞」の特別賞を受賞。12年には「渋沢栄一ビジネス大賞」のベンチャー部門「特別賞」、16年には「同テクノロジー部門」奨励賞を受賞している。

同システム「ヒートク」について「熱源となる地中熱エネルギーを確保でき、掘るボーリングの本数は従来の約5分の1で済む」と福宮。熱源を得るための新しい敷地確保や

地下の井戸を掘る土木作業の負担も軽減する。現在は農家だけでなく、空調負担の大きい福祉施設や事業所、住宅でも導入が進む。古河おもと腎クリニック（茨城県古河市）では館内各所の温度差を抑える全館空調・換気システムを導入し、地中熱の利用により電気代を従来の半分に抑えた。空調や除湿、空気清浄機能、換気に地中熱システムの技術を融合し、透析を受ける患者らに健康な空気を低コストで24時間送風する。「今は除菌機能なども加え、環境に優しいサービ

スを追求していく」と福宮は意気込む。（敬称略）